

西風シーズンイン遠州灘には特有の注意点があります。

西風も入り始めた 11 月最終週、12/1,2 日には掛川スラロームも開催ですね！

海に入る前は海の状況、体調、道具のチェックは当たり前ですよ。セルフディフェンス当然

下記は他のポイントでも当てはまるとは思いますが、遠州灘特有の注意事項です。

(1) 漁船に注意しましょう。



1 月中旬までは、岸辺でシラス漁が盛んです。「網がある船の後方には近づかない」は当然ですが、風波を切って進む船は船首が大きく上下するので、船からは前や横のウィンドサーファーは見えないです。近づかない&横切らないようにしましょう。帰港中も網を洗う為に網を引いている場合があるそうなので注意しましょう。お昼にはシラス漁は終わりますが、御前崎ロングビーチには午後 2 時過ぎから伊勢海老、ヒラメ網などを 300 m 程沖合に仕掛けに場所の取り合いの為、猛スピードの漁師さんの船で現れますので、そちらも注意願います。操業の迷惑になら無いように、絶対に近づかずに離れてください。

操業の迷惑になら無いように、絶対に近づかずに離れてください。

(2) サーファーに注意しましょう。



まだ水温温かく多くのサーファーが海に入っております。風が吹き上がると海からあがるとは思いますが、吹き始めの時間帯などは、同じ海面を共有する事も多いです。ウインドサーフィンは風の力を使うスポーツでスピードもかなり速く、板も大きいのでサーファーとの衝突は致命傷になりかねません！！人力で楽しむサーファー優先であることを肝に銘じてください。海のルールです。

(3)ダウンウィンドの SUP に注意しましょう。



SUPer は目立つ色を身に付けていますが、風上から風下へかなりのスピードが出ます。ガイドを含め複数人で行動していますので、1人見かけたら他にも居ると思ってください。

いずれもアビーム方向に進むウィンドサーファーに最短距離で近づいてきます。

いつもより視野を広く保つ必要があります。

(4)ウインドサーフィン同士の接触に注意しましょう。



Waver は止まっているようでも波の力で加速し風上や風下へ一気に移動しますし、ループ系ジャンプは風下に大きく移動してきます。

他の艇との衝突を避けるには、セイルが倒れてもぶつからない距離 10m が必要だと言われますが、波に巻かれた道具だけ飛んできたり、ジャンプで空中分解した道具だけが風に乗って飛んできたりもします、強風化では更に注意が必要です。

波打ち際に沈む姿は、後続者からは波の壁で見え

ず、気づかないので、ボケっとしていると、後ろの波に乗った人に引かれる恐れもあるので、注意願います。Slalom の感覚で Waver に近づかないようにしましょう。十分な距離をとりましょう。

(5)鮫等にも注意しましょう。



秋口にかけてが、多いようです。小魚等を追い、静岡沿岸でも、かなり岸边に寄ってくる事も有り、波打ち際に打ちあがる事も、目撃情報も多いです。左の画像は 2018 年 11 月 25 日に御前崎ロングビーチ坂下ポイントの浅瀬に打ち上げられた鮫です。元々海に住む生物なのでどこかにはいますが、念の為、ご注意ください。但し、どこの海にもサメはいる。私たちが陸で当たり前のよう暮らしているのと同じように、海にも普段から平和に住んでいる生物たちがいます。海にサメ

が出ると大きなニュースになりがちですが、それは驚くことではなくあたりまえのことだと思います。

何所で乗るにも当たり前の事ですが、有事に備えておくことは必要です。

一人で乗らない！周りの方にあなたの存在を知ってもらう事は重要です。

まずは自分の乗るビーチは何所なのか？近隣の施設を覚えてください！近隣のAEDの所在地を調べてください。

掛川市のAED所在地→<https://batchgeo.com/map/dad02f9acaaf22f4eec7a1e988d2295a>

御前崎ロングビーチ→いちばん早く届けてくれるのは御前崎渚の交番 Tel：0548-23-9927

磐田市福田海岸→ 渚の交流館が直近です Tel：0538-30-7091

また、今シーズンから大会に重ならなければJWA安全委員の野口もAEDを持ち歩いています。

大会の無い土日祝はF-Waveスクールを三浜（丸栄コンクリート裏）で行ってます。

主な遠州灘の正式なウインドポイント名を覚えよう。（太字が要請する際の本来の名称です）

御前崎坂下ポイント薄原駐車場、少し東側がメインポイント、旧亀便所前が正面と呼ぶ。

磐田エリア福田海岸は**新堤東側**ウインドが行われるポイントとなります。

掛川エリアは**弁財天川河口西**（狭い橋を渡ったところ）、**弁財天川河口東**、浜野は**ブッター**、三浜は**丸栄コンクリート裏**、菊ブは総合**グラウンド前**、潮騒橋下は**菊川河口西**、う〇こビーチは**菊川河口東**、シートピア**温泉前**、千浜南は**沈船ポイント**、千浜は**キャタラーポイント**緊急車両の要請はウインド業界の呼び名では通じません！！上記記載が救急隊へ通じる名称となりますので確認を宜しくお願い致します。数分の遅れで生存率が大きく変わります。ウインド界でのポイント名は伝わらないですからね！！

119番通報で救急要請をかける場合は（例）現場は掛川市旧大東町の菊川河口西、潮騒橋から西へ50mの所、救急車を潮騒橋ふもとの駐車場に呼んで下さいと伝えるとわかりやすいです。

覚えておこう！

救急車を呼んだ場合は何所まで車両が入れるか等、知るべきことは多々あります、掛川のゲレンデの事をひとくくりに御前崎に行くと良く聞きます。家族へ行先を告げる際は明確な場所及び遠州灘に行くと伝え下さい。行方不明になった場合、捜索の初動が遅くなります。また仲間に自宅の連絡先を伝えておいてください。緊急連絡先をお知らせしておくのが、万が一の場合必要です。

★緊急連絡先

119: 救急車の要請など救急活動が必要な場合(救急処置が必要と可能性がある場合は即座に)

118: 海難人身事故に遭遇、または目撃した場合(行方不明などの場合は沿岸捜索が必要な場合)

民間機関: 御前崎渚の交番 TEL: 0548-23-9927

セイルやボードを流してしまった際は必ず海上保安庁に連絡をして頂くようにお願いします。漂流物をそのまま放っておくと、道具が発見された際に乗っていた人が行方不明と思い、大規模な捜索活動が始まりますので、必ず、ご連絡をお願い致します。又は最寄りのショップさんに連絡入れてもらいましょう。

消防隊—御前崎海上保安署—民間救助組織は連携がとれています。

救急の場合の 119 番通報の手順 (磐田市消防より引用)

119 番通報をすると、指令員が必要なことを順番にお伺いします。

緊急性が高い場合は、すべてお伺いする前でも救急車が出動します。

あわてず、ゆっくりと答えてください。



(1) 救急であることを伝える

119 番通報をしたら、まず「救急です」と伝えてください。



(2) 救急車に来てほしい住所を伝える

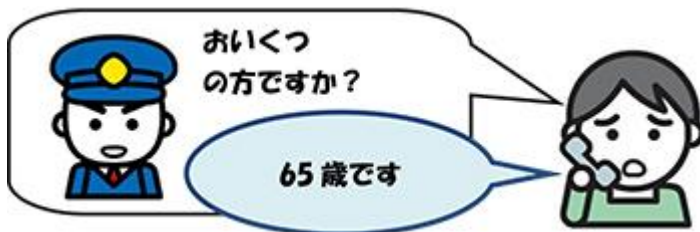
住所は、必ず市町村名から伝えてください。

住所が分からない時は、近くの大きな建物、交差点など目印になるものを伝えてください。



(3) 具合の悪い方の症状を伝える

最初に、誰が、どのようにして、どうなったと簡潔に伝えてください。
また、分かる範囲で意識、呼吸の有無等を伝えてください。



(4) 具合の悪い方の年齢を伝える

具合の悪い方の年齢を伝えてください。
分からない時は、「60代」のように、おおよそでかまいませんので伝えてください。



(5) あなたのお名前と連絡先を伝える

あなたのお名前と119番通報後も連絡可能な電話番号を伝えてください。
場所が不明な時などに、問い合わせることがあります。

※1 その他、詳しい状況、持病、かかりつけの病院等、交通事故の場合はどのような事故なのかを尋ねられることがあります。答えられる範囲で伝えてください。

※2 指令員から応急処置の指示があります。できる範囲で行ってください。

※3 上記に示した内容は一般的な聞き取り内容です。

海上でのレスキューは危険が伴います！！

海上で溺れている人(溺者)を救助することは、コンディションによっては容易なことではない。潮の流れ(=カレント)、波高などの状況をよく考えて救助に向う必要があるのは当然だが、なるべく周囲にいる人たちにも知らせて一緒に救助に当たるようにしたい。ライフガードがいる海ならば、両腕を大きく左右に振って彼らに救助を求める合図を送ろう。

右のイラスト付きの解説が丁寧に説明されているのでしっかりと見ておくことをお勧めします。



SURFER'S MEDICAL ASSOCIATION
JAPAN OFFICIAL WEB SITE

サーファーズ・メディカル・アソシエーション ジャパン
<http://www.fitplus.co.jp/sma/index.html>

サーファーのための基礎知識の応急処置のコンテンツを開くと

<http://www.fitplus.co.jp/sma/basicknowledge/medical/medical003.html>



応急処置

- ・怪我予防のための基礎知識
- ・応急処置の基礎知識
- ・レスキューの基礎知識
- ・症状別対応の基礎知識
- ・メディカル用品
- ・感染症マニュアル

応急処置
SURFER'S BASIC KNOWLEDGE

海で気を失った人を見つけたら

近くで溺れている人を見つけたら、まずは様子を見ながら近づかねばならないが、同時に周囲の人間にも声をかけて一緒に救助を行うようにしたい。近くにライフガードがいれば腕を左右に大きく振って合図をする。

溺者に近づく



「どうしましたか?」と声をかけながら溺者にゆっくりと近づきながら観察する。すでに水面でもがき苦しんでいるような事態なら、素早く近寄るのは当然だが、相手にしがみつかれ、こちらの動きがとれなくなる危険性を考え、まずは1歩手前で様子を観るようにする。「もう大丈夫です!安心してください!」など、パニックになっている相手を落ち着かせる言葉をかける配慮も大切。

溺者を抱えてそのまま岸まで泳ぐ



救助は、溺者の後方へまわり、片方の腕で脚を抱えかかえるようにするか、脇の下を片手でしっかりつかみ、片手を引っ張るようにして溺者を運ぶ。



ボード(ロングボード)に乗せて運搬することもできる。溺者をボードに乗せるには、一度、ボードを裏返し、溺者の片腕をボードに引っ張り上げてから、そのままの状態でボードを裏に返すようにする。ボードを回転させるときの浮力を使って溺者の体を引っ張り上げるのがポイント。相手に意識があれば、ボードのノーズを支え、テール側からボードにはい上がらせる。溺者の脚に強い重なるようになってゆっくりとパドリングして岸へと向かう。岸まで運いたら、素早く溺者を波打ち際から岸壁させること。もし、溺者に抱きつかれてしまい、こちらの動きがとれなくなった場合は、溺者を水面上に支えたまま、自分だけ水中へ潜る。相手の腕を解くことができる。

↑ SMA応急処置コンテンツより引用